

「たかはま子ども市民憲章」 普及啓発書作成事業

研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

高浜市教育委員会
愛知県高浜市こども未来部こども育成グループ
TEL 0566-52-1111

実施年月日	平成16年4月～8月(5回のワークショップを実施)
主催(共催)	高浜市・高浜市教育委員会
開催場所	高浜市役所
対象	保護者、幼児
人権課題	子ども

事業の目的

平成15年11月、高浜市は、市内に暮らす全ての子どもが主体的に社会に参画し、子どもの自己実現が図れるように支援するとともに、子どもの権利擁護を推進するために、「たかはま子ども市民憲章」を制定した。その実効性を高めるためには啓発活動の果たす役割が大きいことから、平成15年から3か年にわたって、子ども、および大人に向けた普及啓発書を作成している。

平成15年には、10代の子どもたちの手で、10代の子どもに向けたパンフレットが手づくりで作成された。そして平成16年には親と子どもの会話の媒介となることで、子どもと大人の双方への普及啓発を図る目的から、幼児向けの絵本『わたしはね…』を作成した。こうした啓発書を活用して「たかはま子ども市民憲章」の認知度を高めることで、ひいては子どもの人権そのものの普及啓発を目指している。

事業概要

絵本づくりの過程で重視したのが、「市民参加」の方針である。公募した4人の市民を含む「子ども市民憲章普及啓発委員」に加え、市内の幼稚園教諭や保育士によって5回にわたるワー

ショップを開いて、ファシリテーターの指導を受けながら絵本の原案を作成した。ただし、挿絵は、読み手の興味を高めるために、児童書の挿絵などを手がけているたかいよしかず氏に依頼した。

絵本には二つの重要なメッセージを込めた。一つは、「さまざまな違い(個性)を認めよう」ということ。絵本は対話形式で作られており、100人いれば100通りの答えが出せるようになっている。それにより、自分自身が大切な個性を持ったかけがえのない存在であると気付かせるとともに、周りの人の気持ちが理解できる優しい心が育まれることを狙いとした。

もう一つは「失敗してもいいんだよ」ということ。絵本のキャラクターたちは雑草のような生命力を持ち、とても自由な発想をする。そこには、「失敗や間違いは決してマイナスにはならない」というメッセージを込めた。子どもたちは、さまざまな経験のなかで、ときには失敗や間違いから自分の弱点を



高浜市が作成した絵本「わたしはね…」



幼稚園での絵本の読み聞かせ

知り、同時に得意なものを見つけ出すものである。そこで、いろいろなことに興味を持ち、楽しんでほしいというメッセージを、作中のキャラクターを通して伝えようとした。また、保護者にも、焦ることなく、肩の力を抜いて、子育てを楽しんで欲しいというメッセージを込めた。

この絵本は4,250部を作成し、希望者に無料で配布するとともに、市内の幼稚園や保育所では読み聞かせを行って、普及に努めている。

絵本を配布する場所

高浜市役所のこども未来部こども育成グループの窓口、幼稚園、保育園、児童センター、子育て支援センター、高浜いちごプラザ

連携状況

多くの方が閲覧し、子どもの人権に対する理解が得られるように、市内の公共施設だけでなく、医療機関や金融機関などにも置いてもらえるように依頼した。

閲覧できる場所

市役所市民課・こども課、いきいき広場、幼稚園・保育園・児童センター・公民館、女性文化センター、勤労青少年ホーム、子育て支援センター、かわら美術館、みどり学園、保健センター、病後児保育室、市内各郵便局、市内各医療機関、各金融機関など

貸出している場所

図書館、図書館分室、市内小・中学校図書館、いちごプラザ

特色・工夫した点

○子どもの興味を引いて、手に取ってもらえる作品にするため

に、挿絵は鮮やかな色や太い輪郭を意識した。さらに表紙と裏表紙を見比べて、「間違い探し」で遊べるようにした。

○それぞれのキャラクターに異なる個性を持たせたうえで、子どもたちから自由な答えが導き出せるような対話形式の構成にした。

○絵本の完成を記念し、絵本原画展「たかいよしかず」展を開催した(日時:平成17年3月1日～3月6日、場所:かわら美術館1階ホール、入場者数:274人)。同時に、「わたしはね…」というワークショップも催した(日時:平成17年3月6日、場所:かわら美術館1階ホール、参加者数:66人)。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

○啓発書の配布時(2月1日～3月7日)に実施したアンケートの結果(回答者数は48人)、その大半が満足し、さらに約6割から「子ども市民憲章を理解した」との回答が得られた。さらに、「子どもが自分と向き合う機会を作ることができる良い絵本だと思います」「子どもたちと絵本を読みながら、お話を一緒に作っていききたいと思います」といった回答が寄せられた。

反省点・今後の課題

○平成17年には、同様に市民参加の形で、大人向けの啓発書を作成した。大人に対して「たかはま子ども市民憲章」を広めるのが目的で、子育てや、子どもとの接し方を主なメッセージとする大人向けの絵本とした。平成18年4月から市民に対して無料で配布している。

○「たかはま子ども市民憲章」の普及のための啓発書をそろえたところで、どのように、それらを子どもの人権そのものの普及啓発につなげていくか、さらなる検討の必要性を感じている。



活用方法を検討中のワークショップメンバー